

地域農林経済学会ニュースレター No.9 (2016年12月13日発行)

★ Contents

- (1) 『農林業問題研究』第52巻第4号(第203号)の発刊案内
 - ①第52巻第4号:目次 ②編集後記 ★査読者一覧
- (2) 各種学会賞受賞者の「受賞の言葉」
 - ①山口三十四・衣笠智子(学会賞) ②鈴木 淳・高田 理(個別報告優秀賞)
 - ③高篠仁奈(個別報告優秀賞)
- (3) 『農林業問題研究』第52巻(2016年)総目次
- (4) お知らせ—e-nafの導入について

(1) 『農林業問題研究』第52巻第4号(第204号)の発刊案内

『農林業問題研究』第52巻第4号が発刊されます。J-STAGE上では12月28日には閲覧可能となる見込みです(閲覧の仕方は2頁を参照ください)。以下、目次と「編集後記」をお知らせします。

① 『農林業問題研究』第52巻・第4号(第204号):目次

<個別報告論文>

農家レストラン経営者の満足度とその要因 —ウェブサーベイによる条件付きロジット分析—

小西智子・大江靖雄

教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業実習教育の展開と課題

山口 創

大学生による地域連携活動の内的効果と評価の枠組み

内平隆之・中塚雅也

米の価格形成の要因分析

万里

農業法人における雇用人材の離職に関する考察 —大規模稲作経営の事例分析—

藤井吉隆・角田毅・中村勝則・上田賢悦

消費者による伝統野菜の認知度と利用特性 —熊本市のブランド化の取り組みを事例として—

富吉満之・上野眞也

Factors Influencing the Level of Anxiety toward Vegetables Grown in Plant Factories Using Artificial Light: A Case of JA Farmers' Market in Fukushima

Yuki Yano, Tetsuya Nakamura & Atsushi Maruyama

Factors Inducing Community Participation in Coastal Resource Management: Case Study of MPAs in Gonzaga, Cagayan, Philippines

Emma Legaspi Ballad, Yoshinori Morooka & Teruyuki Shinbo

小水力発電が農山村地域の課題解決に果たす役割

—岐阜県郡上市石徹白地区と奈良県吉野町を事例として—

査 蕾・竹歳 一紀

Farmers' Awareness, Participation and Sources of Information on Extension Activities in Rural Nigeria: A Case of Patigi Local Government Area of Kwara State

Adebola A. Ajadi, Oladimeji I. Oladele, Koichi Ikegami & Tadasu Tsuruta

Economies of Scale in Indonesian Rice Production: An Economic Analysis Using PATANAS Data

Ermoiz Antriyandarti & Seiichi Fukui

②第 52 巻第 4 号：編集後記

本号は個別報告論文 11 本によって構成される内容となっております。審査にご協力いただきました皆様には、心よりお礼申し上げます。

さて、先日開催されました近畿大学大会において 64 の研究報告がなされたところですが、先日の集計のうち 30 報告が個別報告論文として投稿がなされました。最終的な掲載数は審査を経てということになりますが、例年よりは投稿数が大幅に減ったというのが現状です（前年投稿数 54 本）。この要因としては前号でご紹介した審査の詳細化等様々考えられ、今後編集委員会等で議論されることと思われませんが、いずれにしても学会誌に掲載される候補論文数が少なくなったことを意味します。それ故、ぜひとも研究論文の積極的な投稿をお願いする次第です。

第 20 期の編集委員会が担当する雑誌は本号が最後となりました。これまで多大なご協力とご理解を賜りましたこと心から感謝いたします。次号以降、第 21 期編集委員会の方々が編集を担当することになりますが、引き続き編集委員会へご協力いただきますようお願い申し上げます。（K）

『農林業問題研究』51巻・52巻：査読者一覧（2014. 10. 01～2016. 12. 31）

相原 貴之・秋津 元輝・浅見 淳之・荒山 裕行・家串 哲生・池上 甲一・石田 章
石塚 哉史・一條 洋子・伊藤 淳史・伊藤 勝久・伊東 正一・井上 憲一・伊庭 治彦
岩崎 正弥・岩本 博幸・内山 智裕・宇山 満・浦出 俊和・大石 和男・大浦 裕二
大江 靖雄・大島 一二・大田伊久雄・小田 滋晃・小野 雅之・片岡 美喜・桂 明宏
金子 治平・亀山 宏・河合 明宣・川島 滋和・河村 律子・北川 太一・北野 慎一
鬼頭 弥生・衣笠 智子・清野 誠喜・草处 基・工藤 春代・ケシャブ ラル マハラジャン
巖 善平・小松 泰信・近藤 功庸・坂本 清彦・四方 康行・霜浦 森平・新保 輝幸
末原 達郎・高田 理・高橋 明広・竹歳 一紀・多田 稔・駄田井 久・田中 裕人
谷 顕子・谷口 葉子・長命 洋佑・沈 金虎・辻村 英之・徳田 博美・富吉 満之
中塚 雅也・中道 仁美・中村 貴子・中安 章・並河 良一・波多野 豪・日高 健
藤井 吉隆・藤栄 剛・藤田 武弘・藤本 高志・古塚 秀夫・堀田 学・本田 恭子
増田 清敬・松岡 淳・松下 秀介・松田 敏信・宮部 和幸・三輪 加奈・武藤 幸雄
矢倉研二郎・矢部 光保・山尾 政博・山口 道利・山下 良平・山田 伊澄・山本 公平
山田 隆一・横溝 功

★オンラインでの本誌の閲覧方法

- 1) 「農林業問題研究 - J-Stage」で検索し、上の方に出てくる「[農林業問題研究 - J-STAGE\(Home\)](#)」をクリックしていただければ、直接本誌のページに飛びます。同じく [Journal of Rural Problems](#) で検索し、"[Journal of Rural Problems - J-STAGE\(Home\)](#)"をクリックすれば、本誌の J-Stage 英語版サイトにアクセスできます。
- 2) 地域農林経済学会のホームページからは、「学会誌」→「農林業問題研究 J-STAGE」に進み、さらに「農林業問題研究」をクリックすると、J-Stage の本誌サイトに飛ぶことができます。
- 3) 「J-Stage」で検索し、J-STAGE のメインページにアクセスします。「誌名」で「農林業問題研究」を検索していただければ、簡単に『農林業問題研究』に辿り着きます。（J-STAGE は独立行政法人科学技術振興機構（JST）が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」のサイトです）。

(2) 各種学会賞受賞者の「受賞の言葉」

去る 2016 年 10 月 29 日、近畿大学東大阪キャンパスで開催されました地域農林経済学会大阪大会の総会において本学会より以下の方々に賞が授与されました。

【学会賞】 山口三十四(神戸大学名誉教授)・衣笠智子(神戸大学), "*Economic Analyses Using the Overlapping Generations Model and General Equilibrium Growth Accounting for the Japanese Economy: Population, Agriculture and Economic Development*", World Scientific Pub Co Inc; 2014.

【特別賞】 該当者なし

【学会誌賞】 該当者なし

【個別報告優秀賞】

- ①鈴木淳・高田理(神戸大学)「先進酒造好適米産地の維持・発展要因と課題 — 兵庫みらい農協を事例として —」
- ②高篠仁奈(東北大学), *Willingness to Pay for Local Rice in Cameroon: Evidence from Experimental Auctions*.

①【学会賞】 "*Economic Analyses Using the Overlapping Generations Model and General Equilibrium Growth Accounting for the Japanese Economy: Population, Agriculture and Economic Development*", World Scientific Pub Co Inc; 2014.

山口三十四(神戸大学名誉教授) 衣笠智子(神戸大学)

この度は、地域農林経済学会賞という大変栄誉ある賞にご選出くださり、誠にありがとうございます。学会の皆様、審査委員の皆様、ご推薦下さった先生方に、心より御礼申し上げます。

本書は、山口の一般均衡的成長会計分析モデルと衣笠の世代重複モデルを融合させたシミュレーション分析を行い、重要なインプリケーションを導いています。その中でも、Chapter 10で、人口減少は理論的、計量的において、非農業に比べ、農業が重要になることを示した点が最も注目すべきものがあります。学会での選出理由に、世代重複モデルのみを取り上げ、山口の業績は既存の物と説明されていた。しかし、本書はこれまでの出版物とは異なり、上述のChapter 10での山口・衣笠両モデルの融合による、人口減少下での農業の重要性の高まり、そのため、政策が極めて重要との結論は、山口モデルを用いて初めて得られた、地域農林経済学会において、極めて重要な結論である。また、これまでの山口の著書等とは異なり、農業と地域に焦点を置いている。その結果、推薦者が強調したように、①明治のデータのある1880年から現在まで、各10年間

に、いかなる要因がこの学会で重要な農業部門、ひいては地域農業を減少させてきたかを、具体的な数字で示している。これは世界広しといえども、皆無の業績である。②計測結果では、農業部門を減少させた要因は、非農業技術進歩、農業技術進歩、資本ストック、総労働力であった。しかも1880年以降、各10年毎に、大きさが計測されている。逆に、農業部門を増加させた要因は、人口、農産物シフター(農産物輸出等)と不完全競争(過剰就業等)である。これらは農業部門や地域農業、地域経済を増加させる諸要因だったが、上記の非農業技術進歩、農業技術進歩、資本ストック、総労働力等、農業を減少させる要因に、追い付かなかったのである。その大きさも計測されている点は、大きな貢献である。特に、上記の7要因は農産物輸出を除き、今後も全て農業を低下させるが、唯一の例外の農産物輸出であり、それに活路を拓くべきという政策的含蓄は、現在の状況に完全に一致している(推薦者の評価も、参考にし、真剣に読んで、正しい評価をしないと、著者に恐ろしく失礼である)。このように、人口減少社会は、地域農業や地域経済に、非常に有

益, チャンスで, 政策をうまくすれば, 農業が重要産業になると思われる(農業関係者は, この政策に総力を挙げるべきである)。

以上のように, 本書は, 地域農林経済学会の会長になり, 地域や農業の発展を心から望む山口の渾身の論文が 8 割を占めている。しかも, 一見とは異なり, 地域農業と非常に深く関連した本であり, また, 人口減少と農業の関わりについてのマクロ経済的な研究は, 近年あまりなされていないので, 今後, 注目すべき研究分野である。さらに, 本書の研究で, 成人寿命の増加が貯蓄率に重要な影響を及ぼすことや, 人口変化が資本蓄積を通じて, 農業や産業構造に影響を及ぼすこと, 農業・非農業技術進歩のプッシュ・プル効果, 人口の技術進歩を通じた経済への貢献等を見出されている。少子高齢化と農業の関わり

りは, 近年の UJI ターン現象など, 政策立案者には注目を集めているが, 経済学の分野から学術的な理論的・計量的研究が十分に行われておらず, 多くの研究の余地が残されているテーマである。

本研究は, 日本だけでなく, 近い将来, 少子高齢化社会に突入するアジアの新興国にとっても教訓になると思われます。今後は, この研究を, 動学マクロモデルを用いた研究や, 他国のデータを用いたシミュレーション, 市町村など, よりミクロな部分に目を向けた地域振興に関する研究等に展開してゆきたいと思っています。さらに, 地域農林経済についての論文や書籍を英語で多く出版し, 国内だけでなく, 海外により多く発信してゆきたいと考えています。

②【個別報告優秀賞】先進酒造好適米産地の維持・発展要因と課題—兵庫みらい農協を事例として—

鈴木 淳* (神戸大学大学院農学研究科)

高田 理 (神戸大学大学院農学研究科)

この度, 第 66 回地域農林経済学会大会において, 個別報告優秀賞を受賞できたことを, 誠に光栄に思います。

近年, 純米酒や吟醸酒といった特定名称酒の消費拡大を受け, 酒造好適米の生産は増加傾向にあります。以前は長期にわたり減産傾向にありましたが, また, 例えば, 兵庫県の山田錦の産地のなかには, 中山間地域に指定されているところもあり, 高齢・零細な生産者が生産を支えている等, 厳しい環境条件におかれていることにより変わりありません。そこで, 本研究は, 先進酒造好適米産地の維持・発展要因を明らかにするとともに, これからも生産を継続し産地を維持していくための, 展開方向について明らかにすることを目的としました。先進産地の事例として, 兵庫県三木市の兵庫みらい農協管内の山田錦産地を取り上げました。まず, 産地の維持・発展を支えてきた産地の農協や, 流通を支えてきた系統農協の意義を明らかにするとともに, 系統外流通の

増加や適地外生産の増加等といった課題を明らかにしました。また, このような課題が, 産地や生産, 流通に及ぼす影響を指摘し, これからの維持・発展のために求められる展開について, 特に農協組織を中心に検討しました。

しかし, 産地の維持・発展において重要なのは, 本研究において取り上げた事柄だけではありません。例えば, 高齢・零細な生産者が大勢を占めるなかでの, 次世代への生産の継承や知識移転, 高品質な生産のための生産者の動機付け, また, 産地の結集力の維持・強化等, 取り組むべき課題が数多く残されています。酒造好適米の生産・流通に関する研究は, 私にとってとても興味深い研究課題のひとつです。これからも引き続き取り組み, 残された課題を中心に研究を深めていきたいと思っています。

さて, 本研究は, たくさんの皆様のお力添えにより成り立っています。特に, 事例産地の兵庫みらい農協や全農兵庫県本部, 兵庫県, また生産者の方

々等、大変お忙しいにもかかわらず調査にご協力を頂いた皆様に、心からお礼を申し上げます。調査では、現場ならではの率直なお話をお伺いでき、また、貴重な資料の提供を頂くことができました。さらに、優れた酒造好適米の生産のために、一所懸命に取り組む高齢な篤農家の方々や、生産を継続し産地を維持していくために、奮励する農協職員の方々を目のあたりにしました。そして、何度も現場にお伺いするなかで、「研究を通じて現場の課題に応えたい」とする意欲が生まれ、研究への動機付けになりました。これからも研究に取り組むにあたっては、このような姿勢を持ち続けていきたいと思えます。そして、いつかは現場に役立つ研究を結実させ、微力ながら皆様に貢献できれば幸いに思えます。

また、本研究は、大会の3か月前に行われました

地域農林経済学会近畿支部大会において、発表させて頂いたものを発展させたものです。近畿支部大会では、座長をお務め頂きました浦出俊和先生をはじめ、たくさんの会員の方々から、多面的かつ的確なコメントを頂くことができました。このような学会の取組は、本研究を発展させるにあたりとても有意義なものになりました。このような機会を与えてくださった学会関係者の方々に、心からお礼を申し上げます。

私は今回の受賞を励みとし、これからも努力と研鑽を怠らずに、研究に邁進していきたいと思えます。地域農林経済学会の皆様には、これからもたくさんのご指導を頂ければ幸いに思えます。よろしくお願い申し上げます。

③【個別報告優秀賞】 Willingness to Pay for Local Rice in Cameroon: Evidence from Experimental Auctions

高篠仁奈(東北大学)

このたびは地域農林経済学会の個別報告優秀賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。選考に関係された皆さま、これまでご指導いただいた先生方、論文に関わる調査・執筆にご協力頂いた多くの皆様に心よりお礼を申し上げます。

本報告では、カメルーン国産米への支払い意思額に関する実証研究についてご報告致しました。この研究の背景には、2008年の世界食糧価格危機以降、中西部アフリカ諸国で穀物生産が伸び悩み、輸入が増加しているという現状があります。これに対して、国産米の市場競争力を向上するためには、増産政策のみならず、消費者の選好に合ったバリューチェーンの改善が必要との観点から、カメルーンの消費者の支払い意思額について実験オークションを用いて計測し、消費者の選好に着目しながら分析を行いました。調査結果からは、国産米の認知度は低く、被験者の半数は国産米を知らないことが明らかにな

りました。しかし、試食の効果を計測した実験オークションの結果からは、国産米への支払い意思額は、試食後に増加することがわかりました。また、米を調理した際の膨張率増加を好む消費者は、輸入米よりも膨張率の大きい国産米への支払い意思額が高いことが明らかとなるなど、カメルーン国産米が市場競争力を持つ可能性が示唆されました。さらに、砕け米の混入率など、米の形状に関する同質性を好む被験者や、味と香りを好む被験者は国産米への支払意思額が低い傾向があるなど、市場競争力を強化するための今後の課題も提示されました。この研究がカメルーン国産米の市場競争力を高めることへの一助となれば幸いです。

今回の報告は、地域農林経済学会に入会してから初めての報告でした。報告を申請する際、個別報告優秀賞の応募資格があることを知ると同時に、年齢上限のため今回が最後の機会であることがわかり、「若手」という言葉に気恥ずかしさはあるつつも思

い切って申請をしました。報告論文は英文でしたが、参加者の多くは日本人と想定していたため、当初は英文のスライドを用いて日本語で報告をする予定でした。事前に、使用言語も英語にすべきか座長の亀山宏先生にお伺いしたところ、学会の規則ではないことをご確認下さった上で「地域農林経済学会には留学生も多いので、教育的観点から、ぜひ英語での報告を」とのアドバイスを頂きました。この助言のおかげでフロアの留学生からもコメントを頂くことができました。私も東北大学で多くの留学生と

学んでおりますが、留学生が研究成果を報告し、ネットワークを作る上で理想的な環境だと感じました。次回大会には是非一緒に参加し、留学生が報告できるよう指導していきたいと思います。

今回、思わぬ評価を頂き大変勇気づけられました。この受賞を励みとして今後もより一層精進し、自身の研究のみならず、微力ながら学会の発展に尽くせればと思います。会員の皆さまには、今後ともご指導頂ければ幸甚です。ありがとうございました。

(3) 『農林業問題研究』第52巻(第201～204号)総目次

各巻の総目次は、従来『農林業問題研究』の各巻末に掲載していましたが、オンライン化に伴い、昨年よりニュースレターでお知らせすることとなりましたので、以下に掲載します。

第52巻・第1号(第201号)2016年3月

<大会講演>

会長挨拶 増田佳昭

大会講演1 戦後農山村思想の転換点—新しい地域継承システムと地方創生— 内山 節

大会講演2 真に必要な地方創生支援とは何か—西栗倉村での仕事づくりの経験から— 牧 大介

<書評>

西川邦夫著『「政策転換」と水田農業の担い手—茨城県筑西市田谷川地区からの接近—』 久保雄生
鬼塚健一郎 著『SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構築』 内平隆之

第52巻・第2号(第201号)2016年6月

<研究論文>

子どもの夕食のとり方とその規定要因—2006年社会生活基本調査の匿名データを使用して— 金子治平

<個別報告論文>

JAにおける青果物営業活動の特徴と人材育成の課題—PAC分析によるアプローチ— 上田賢悦・清野誠喜

山菜栽培における技能の普及システムに関する一考察—真室川町農協タラノメ部会を事例として—

米澤大真・宮部和幸

有田地域におけるみかんの市場評価と産地のあり方

栗生和樹・浦出俊和・上甫木昭春

集落営農の効果に関する農業者の理解支援に関する考察—効果の試算結果に関するワークショップを通じて— 武藤幸雄

消費者によるネットスーパー利用—購入後の使用プロセスに注目して— 滝口沙也加・清野誠喜

農産物購買行動への「解釈レベル理論」の適用可能性 —イチゴを素材にWEBアンケート調査を用いて— 吉田晋一・大浦裕二・氏家清和

耕作放棄地を利用した太陽光発電の発電量推計と経済性評価 —北海道の全耕作放棄地を対象とした試算— 伊藤寛幸・澤内大輔・山本康貴

造礁サンゴ保全に利用可能な政策手段と海洋保護区 新保輝幸

<書評>

山口道利著『家畜感染症の経済分析—損失軽減のあり方と補償制度』 飯國芳明

第51巻・第3号(第203号)2016年9月

<研究論文>

Comparative Advantage and Cost Efficiency of Rice-Producing Farms in Bangladesh: A Policy

Analysis Mohammad Ariful Islam
昭和恐慌からの回復期における農家の教育・医療支
出 草処基・丸健・高島正憲

<個別報告論文>

離島移住者の定住志向とその要因
霜島小夜子・大江靖雄
特産品開発における地域固有性の獲得プロセス

消費者との連携による都市農業の保全と課題—東大
阪市のエコ農産物特産化とファームマイレージ2運
動— 中塚華奈

水産養殖産地における自発的販売組織の展開と産地
再編—愛媛県宇和島市蔭淵地区の調査結果から—

地域と継続的に関わる地域おこし協力隊出身者の特
性と活用 柴崎浩平・中塚雅也

数理計画モデル分析における気象リスク評価方法の
拡張に関する一考察—気象リスクを考慮した水稲乾
田直播栽培の経営的評価を事例として—

孫雯莉・大石亘・ルハタイオパット
ブウォンケオ・松下秀介

時間主導型活動基準原価計算による環境保全型家族
農業経営の農産物別環境原価の算出 家串哲生
将来の人口減少が品目別食料自給率に与える影響分
析 廣瀬拓・赤堀弘和・近藤功庸・
澤内大輔・山本康貴

カナダにおける農業経営改善支援プログラムの新た
な展開—オンタリオ州およびサスカチュワン州を事
例として— 内山智裕

牛肉の購買行動における消費者意識構造の把握—共
分散構造分析を用いた解析— 長命洋佑・広岡博之
高齢者の孤食状況とその要因—社会生活基本調査の
匿名データを使用して— 金子治平・花田麻衣

日系ビールメーカーの中国国内販売戦略に関する事
例分析—中国特有の商慣習問題への対応を中心に—
金子あき子・大島一二

中国の都市化地域における農村基層組織の機能低下
と観光経営体の役割—北京市怀柔区官地村と北溝村

を事例として— 高田晋史・中塚雅也・玉橋
中国の農村労働力に対する非農業職業教育の実態
—安徽省臨泉県職業高校の事例から—

劉飛・竹歳一紀
固定価格買取制度以降の中国地方の小水力発電の展
開 本田恭子・三浦健志・松岡崇暢・岩本光一郎

<書評リプライ>

『SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構
築』(評者:内平隆之) 鬼塚健一郎

第52巻・第4号(第204号)2016年12月

<個別報告論文>

農家レストラン経営者の満足度とその要因—ウェブ
サーベイによる条件付きロジット分析—

小西智子・大江靖雄
教育関係共同利用拠点制度における大学農場の農業
実習教育の展開と課題 山口創

大学生による地域連携活動の内的効果と評価の枠組
み 内平隆之・中塚雅也
米の価格形成の要因分析 万里

農業法人における雇用人材の離職に関する考察
—大規模稲作経営の事例分析—

藤井吉隆・角田毅・中村勝則・上田賢悦
消費者による伝統野菜の認知度と利用特性—熊本市
のブランド化の取り組みを事例として—

富吉満之・上野眞也
Factors Influencing the Level of Anxiety toward
Vegetables Grown in Plant Factories Using Artificial
Light: A Case of JA Farmers' Market in Fukushima

Yuki Yano, Tetsuya Nakamura &
Atsushi Maruyama
Factors Inducing Community Participation in Coastal
Resource Management: Case Study of MPAs in
Gonzaga, Cagayan, Philippines

Emma Legaspi Ballard, Yoshinori Morooka
& Teruyuki Shinbo

小水力発電が農山村地域の課題解決に果たす役割
—岐阜県郡上市石徹白地区と奈良県吉野町を事例と
して— 査 蕾・竹歳一紀

Farmers' Awareness, Participation and Sources of Information on Extension Activities in Rural Nigeria: A Case of Patigi Local Government Area of Kwara State

Adebola A. Ajadi, Oladimeji I. Oladele,
Koichi Ikegami & Tadasu Tsuruta

Economies of Scale in Indonesian Rice Production: An Economic Analysis Using PATANAS Data

Ernoiz Antriyandarti & Seiichi Fukui

(4) おしらせ— e-naf の導入について

平素より学会の運営にご協力いただきまして有難うございます。

この度、地域農林経済学会では、オンライン会員管理情報システム（以下、e-naf）を導入することになりました。e-naf 導入後は、会員ご自身がオンラインにて登録情報を更新していただくことが出来ます。また、e-naf より学会からのお知らせメールを配信させていただく予定です。

つきましては、ニュースレターに同封されました会員ID（会員番号）および初回パスワード（仮パスワード）によりシステムにアクセスして頂き、初回パスワードを任意のパスワードに変更していただきますようお願い申し上げます。 変更方法についての詳細は、ID・初回パスワードご案内の裏面をご参照ください。

なお、e-naf 導入後も、郵便・電子メール・ファックスによる各種お届け、お問い合わせには、引き続き対応いたします（詳細は、学会ウェブサイト <http://a-rafe.org/> をご参照ください）。

（庶務担当常任理事）

★編集後記

ニュースレター第9号をお届けします。今回は、昨年よりはじめてのことですが、研究大会で学会賞を受賞されたの方々から「受賞の言葉」を寄せて頂きました。快く応じて頂いた受賞者の方々に感謝する次第です。

第2号から第9号までは第20期の組織・広報担当理事が「ニュースレター」を発行してきました。第10号からは21期の新理事（秋津・中村）が担当することになります。これまでとは異なる斬新で充実したニューズレターが皆様のお手元に届くことになろうかと思えます。

会員の皆様方への情報提供とコミュニケーションを図っています。本ニュースレターに関するご意見、ご要望など、また掲載を希望される事柄などがございましたら、組織・広報担当常任理事（秋津 akitsu@kais.kyoto-u.ac.jp、または中村貴子 taka@kpu.ac.jp）までお知らせ下さい。（A）



地域農林経済学会ニュースレター No.9
発行日：2016年12月13日
発行者:地域農林経済学会常任理事会(組織・広報担当)